

2021年 7月 25日(日) 関東学院教会 主日礼拝 説教要約

説教「口に入るもの、口から出て来るもの」 マタイによる福音書 15章1-20節 高橋彰

◆昔の人の言い伝え

15 1 そのころ、ファリサイ派の人々と律法学者たちが、エルサレムからイエスのもとへ来て言った。2 「なぜ、あなたの弟子たちは、昔の人の言い伝えを破るのですか。彼らは食事の前に手を洗いません。」3 そこで、イエスはお答えになつた。「なぜ、あなたたちも自分の言い伝えのために、神の掟を破っているのか。4 神は、『父と母を敬え』と言い、『父または母をののしる者は死刑に処せられるべきである』とも言っておられる。5 それなのに、あなたたちは言っている。『父または母に向かって、「あなたに差し上げるべきものは、神への供え物にする」と言う者は、6 父を敬わなくてもよい』と。こうして、あなたたちは、自分の言い伝えのために神の言葉を無にしている。7 偽善者たちよ、イザヤは、あなたたちのことを見事に預言したものだ。

8 『この民は口先ではわたしを敬うが、その心はわたしから遠く離れている。

9 人間の戒めを教えとして教え、むなしくわたしをあがめている。』」

10 それから、イエスは群衆を呼び寄せて言われた。「聞いて悟りなさい。11 口に入るものは人を汚さず、口から出て来るものが人を汚すのである。」12 そのとき、弟子たちが近寄って来て、「ファリサイ派の人々がお言葉を聞いて、つまづいたのをご存じですか」と言った。13 イエスはお答えになった。「わたしの天の父がお植えにならなかつた木は、すべて抜き取られてしまう。14 そのままにしておきなさい。彼らは盲人の道案内をする盲人だ。盲人が盲人の道案内をすれば、二人とも穴に落ちてしまう。」15 するとペトロが、「そのたとえを説明してください」と言った。16 イエスは言われた。「あなたがたも、まだ悟らないのか。17 すべて口に入るものは、腹を通って外に出されることが分からぬのか。18 しかし、口から出て来るものは、心から出て来るので、これこそ人を汚す。19 悪意、殺意、姦淫、みだらな行い、盗み、偽証、悪口などは、心から出て来るからである。20 これが人を汚す。しかし、手を洗わずに食事をして、そのことは人を汚すものではない。」

聖書 新共同訳(C)日本聖書協会 Japan Bible Society, Tokyo 1987, 1988

コロナ禍の今、「手を洗う」という習慣からのファリサイ派とイエスとのよく知られた論争が、リアルに読み直せるように思います。

ガリラヤ地域で神を宣べ伝え、活動をしていたイエスの評判はユダヤの都エルサレムにいるユダヤ教の中枢の指導者たちの耳にも入り、ついにエルサレムから遣わされた人びとがやってきて、イエスと弟子たちの活動を監視し始めました。前章で民衆が「くまなく触れ回」(14:35)ってイエスの許に集まり、いやされ、熱心に教えを聞く様子を見て、危機感を覚えていたのです。そして病人に自ら平気で手を差し伸べ、衣にも触らせるイエスの行為は、清めと汚れを徹底することが律法遵守の重要な基準と手段であり神との関係を確認する方法であったファリサイ派にとっては、汚れに感染しており、神に対する理解や教えにおいては真っ向から対立するものに映ったのでした。ファリサイ派と律法学者たちは、イエスの弟子たちが食前に手を洗わなかつた行為を指摘してイエスを非難します。「昔の人の言い伝え」はファリサイ派がユダヤ教の律法を具体的な生活への適用のための解釈として教え続けてきた伝承です。生活の細かな事例に対応し、その事例を積み重ね、また神の言葉の解釈を熱心に研究し続けて、律法と同じように口伝による教えを重視して自分たちの守るべき戒めとしてきたのです。使徒パウロも過去の自分を振り返ってそう話します(ガラテヤ1:14)。それは人を宗教的基準で分断し、徹底して迫害し、滅ぼすという暴力的な行動と思想を正当化し、原動力になっていたのでした。

手を洗う行為は、衛生的な事情が宗教的戒律へと変容されました。神は清い方であるので、神と交わり神を礼拝する人間も清くなければならない。身の清めや、食物選別の基準や儀式が細かく定められました。元は祭司のための規定が、一般の人びとにも拡げて適用され、要求されるようになりました。汚れは最も外部と接触が多い手から来る。汚れは感染すると。

イエスは「自分の言い伝え」を「神の言葉」と対比させて言います。「神は」こう言われている(十戒、19節)、しかし「あなたがたは」自分たちで都合良く解釈を組み合わせてこう言っている、それは神の言葉の解釈どころか、自分たちが神に成り代わって都合良く命令をしていることになる!「自分の言い伝えのために神の言葉を無にしている」。神の戒めを守るという理由での行為が、神の言葉を無にするとはなんと皮肉なことでしょうか。イザヤ29:13を引用して、受けた非難にきっぱりと応答されました。イエスは口伝の伝承を「口から出て来るもの」とたとえて批判します。人の「心」から出て来る言葉が、人を汚し傷つけるものにもなるのです。

一方で「口に入るもの」である食物が人を汚すことはないという言葉は、律法の食物規定(レビ記等)を乗り越える解釈を示しています。この越境の解釈が、清めと汚れの境界線を引き直してゆきます。食物だけでなく、人間のことをも意味しているのです。この後のエピソードにもつながってゆきます。